
ランチオンセミナー 6

5月16日(土) 12:20～13:10

第7会場 福岡国際会議場 4F (411+412)

ケーススタディから学ぶ血液ガス分析

～その意義と解釈、いっしょに学びませんか…～

講演者：濱田 宏輝 (大阪府三島救命救急センター 医療技術部 検査科)

司会：柴田 泰史 (日本医科大学付属病院 臨床検査部)

共催：ラジオメーター株式会社

血液ガス分析は緊急性、重要性の高さから血圧や脈拍・体温・意識レベルといったバイタルサインと同等に、初期診療時、手術時、急変時などに必要不可欠な検査であり、臨床検査技師が習得しておかなければならない必須の項目である。しかし実際の臨床現場では、血液ガス分析装置がベッドサイドに設置され、測定は医師や看護師が測定することが多い。そのため臨床検査技師は、機械のメンテナンスを行うことはあっても、データを見て解釈する機会は少ないのではないだろうか。血液ガスが苦手という技師のほとんどは、この「血液ガスに対する不慣れ」が原因だと考えられる。言い換えれば、血液ガス分析の測定値を読み、病態について考える習慣をつけることが、血液ガスが面白いと感じるための近道ではないかと思う。

血液ガス分析の目的は大きく3つある。①酸素化を

評価する、②呼吸（ガス交換）の状態を評価する、③酸塩基平衡を評価することである。これらを病歴やバイタルサイン、その他の検査結果などの患者情報と併せて的確に解釈することで病態の把握や重症度の評価、疾患の鑑別が可能となり、呼吸管理や輸液管理といった治療にも直結し、また治療効果の判定としても非常に有用な情報となる。本セミナーでは、「酸素化能って何?」「アシドーシス?アルカローシス?」「アニオンギャップの解釈は……?」という苦手意識を持つ方を対象に、血液ガス検体の取り扱いや測定値に影響を与える因子、血液ガスの解釈に必要な基礎的な呼吸生理学などの内容に加えて、酸素化能の評価、換気能の評価、酸塩基平衡の解釈といった基本的な血液ガスの内容、また実際に当センターで経験した症例をもとに解釈のコツなどについても解説したい。